

教科名		道徳	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	東京書籍	学校図書
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ABCの領域が各学年ともにバランスよく配当されている。</li> <li>・低学年では「主として自分自身に関すること」のAを、高学年では「主として集団や社会との関わりに関すること」のCに重点を置いている。自分の問題から集団や社会の問題へと広がりがあがる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも、各領域の学習が満遍なくできるよう教材の配分がされている。</li> <li>・それぞれの学年で重きを置いている領域があり、その内容が指導内容の重点に適している。</li> </ul>
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の身近な生活場面から問題解決的な学習ができるようになっている。</li> <li>・3年生以上には、「問題を見つけて考える」教材が設定されていて、主体的に考えて自分の生き方を追求することができる。</li> <li>・安全・防災教育や情報モラル教育、いじめ問題に関する内容により、児童を取り巻く今日的な課題に対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書が活用編(ノート)と読み物編の分冊になっており、読み物編には発問が書かれていないため、教材の中で何が課題になっているのかを自ら発見し、考えていく力を付けていくことができる。</li> <li>・活動編には、自分の考えと友達の考えを合わせて書けるような工夫がされている。</li> </ul>
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の心を揺さぶる感動的な教材、児童の身近な話題で共感を呼ぶ教材により、児童の心を豊かに育むことができている。</li> <li>・オリンピック・パラリンピック、いじめ問題、情報モラル、震災といった時代に即応した教材がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命のつながり、人のつながり、時のつながり、夢のつながりの4つの視点で教材が編集されている。</li> <li>・オリンピックやいじめ問題、情報モラル、ドクターヘリ、災害など、現代的な課題を意識した教材が盛り込まれている。</li> </ul>
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な社会的課題を自分との関係において考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を養える教材を取り上げている。</li> <li>・持続可能な社会づくりに向けて、「環境」「人権」「平和」「食育」「国際理解」に関する教材が掲載させている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解教育、人権、環境、食育、キャリア教育、伝統文化教育、福祉教育など、ESDの視点が取り入れられている。</li> </ul>
B 使用上の 便宜 について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書巻頭の「道徳の時間が始まるよ!」で、どのように学習するのかを分かりやすく示している。</li> <li>・教材名の横に学習のテーマを記載し、教材で扱う内容項目を児童に分かりやすい言葉で示してある。</li> <li>・学期ごとにまとめをするページが付いており、児童が自分の学習を振り返ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書が活用編(ノート)と読み物編の分冊になっており取り扱いやすい。</li> <li>・「きづき」と「まなび」の2部構成で、児童が主体的に学習を進められるように工夫されている。</li> </ul>
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩市に特化した教材はないが、児童の実態に即している。</li> <li>・学年によっては、他教科で学習した内容の読み物教材が掲載されていたり、多摩川の生態系を扱う教材があったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩市に特化した教材はないが、多摩市にも共通する場面設定や地域の問題に根差した教材がいくつか取り扱われている。</li> </ul>

教科名		道徳	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	教育出版	光村図書出版
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書前半に規範意識や規則尊重、あいさつなどの内容が設定されており、年度の早い段階で規範等を話し合えるような構成になっている。</li> <li>低学年と中・高学年で、重点に置く内容の違いがあり、発達段階に即した構成になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭に「道徳の時間は…」と書かれており、道徳の時間へのイメージを児童がもちやすくなっている。</li> <li>途中で、コラムや資料があり、教材文と併せて学習することで基礎・基本の確実な定着が期待できる。</li> </ul>
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「手引き」の発問は、教科書全体を通して問題解決的な学習ができるような構成になっている。</li> <li>ワークシートに書くだけでなく、体験的な活動が取り入れられており、ねらいに迫るために有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文の最後に「考えよう・話し合おう」「つなげよう」がある。特に「つなげよう」では、道徳的価値について話し合い、考えを深める内容が書かれている。</li> <li>人物の性格や人柄を表す言葉の紹介、役割演技のポイントが記載されている。</li> </ul>
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラル、いじめ、オリンピック・パラリンピック、災害、命の尊さなど、現代に即した教材が取り扱われていたり、先人の伝記が多く紹介されたりしている。</li> <li>「ソーシャルスキルトレーニングを扱う教材もあり、教材が多岐にわたっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラル教育やいじめ問題に関する教材は複数あり、その他防災教育など現代的な課題も扱われている。特に、6年生はキャリア教育に関する教材が多い。</li> <li>D項目が高学年は多い。低学年や中学年はC項目が多い。</li> </ul>
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境や自然、生命の尊さ、情報など、持続可能な社会づくりに向けた課題についての教材が掲載されている。</li> <li>人権に関する教材がどの領域においても取り扱われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育、共生、福祉に関する教育、人権、キャリア教育などESDの視点が取り入れられている。</li> </ul>
B 使用 上の 便宜 について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材の最後に、「考えよう」「深めよう」「やってみよう」「学びのリンク」等があり、児童が見通しをもって学習を進められるような工夫がされている。</li> <li>巻末に「学びの記録」があり、学習した日にちや心に残った授業について、また1年間の学習を振り返るコーナーもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書には3回、「学びのきろく」コーナーがある。どのように学習できたかを振り返ることができる。</li> <li>学校や家庭において、補助的に使用できるようQRコードが付いている。</li> <li>巻末に、よりよい人間関係をつくるための話し方の「こつ」など、学年の実態に応じた「こつ」が紹介されている。</li> </ul>
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>多摩市に特化した教材はないが、緑豊かな多摩市で生活する児童には教材の内容が捉えやすくなっている。</li> <li>東京が題材となっている教材がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多摩市や多摩地域の教材はなかったが、市内小学校の実態には即した内容である。</li> </ul>

教科名		道徳	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	日本文教出版	光文書院
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に「道徳の学び方」があり、よりよく生きるために大切なことについて考えていく学習方法が書かれている。</li> <li>・「心のベンチ」が所々に入り、道徳的価値観の形成に役立つ資料が載っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・善悪の判断、自律、自由と責任、節度、節制、生命の尊さを重点とし、特に生命の尊さを軸に生きる力を育てている。</li> <li>・巻頭に、道徳の時間の在り方を示していて、児童が自分の考えを深めていこうという意欲付けになる。</li> <li>・巻末には、「学びの足あと」として授業の記録を簡単に書けるようになっている。年に3回は、全体のことを振り返れるよう「まとめ」の欄もある。</li> </ul>
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」の項目があり、考えたり、表現したりしやすい工夫がされている。</li> <li>・別冊の道徳ノートには、自分で考えて書くフリースペースが用意されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考える」とときには、自分の体験と重ねたり、話し合ったり考えたり、実際にやってみたりするなど、様々な学習活動ができるように工夫されている。</li> <li>・教材文の下に、キャラクターが思考の補助になるような問いかけをしてくれている。児童にとっては、問題意識をもつためのヒントに成り得る。指導者も授業をする際の参考にできる。</li> <li>・教材名の隣にテーマが書かれており、考えやすくなっている。</li> </ul>
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルは2回、その他キャリア教育や消費者教育など現代の課題となっているテーマが扱われている。</li> <li>・各学年で長く読み継がれてきた教材がいくつかあり、絵本から教材になったものもある。</li> <li>・文部科学省の読み物資料を出典とする教材が3分の1である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や学校生活など、児童が自分のこととして考えやすい教材や長く読み継がれてきた教材、人間としての生き方に迫る教材が掲載されている。</li> <li>・タブレットでメールのやり取りをする場面を扱った教材があり、児童の実態に即している。</li> <li>・情報モラルやいじめ、オリンピックに関わる教材が多く、さらに児童の生活に即したのも教材として掲載されている。</li> </ul>
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の尊さを扱った教材が3点掲載されている。「国際理解」では、オリンピックとパラリンピックを扱っている。</li> <li>・自然愛や環境問題を取り上げてあり、ESDの視点に即している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解教育、情報モラル教育、障害の有無に関わらず、互いのよさを認め合っ</li> <li>て協同していく態度など、現代的な課題を掲載している。</li> <li>・持続可能な社会づくりとして、「エコ活動(ごみについて)」を取り扱っている。</li> <li>・現代的な課題として「人権(障害者、外国人)」「開発(ノーベル賞)」を掲載している。</li> <li>・自然愛や環境問題を取り上げてあり、ESDの視点に即している。</li> </ul>
B 使用 上の 便宜 について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題名、導入の発問例、あらすじ、主な登場人物が本文を読む前に分かるようになっており、児童にとっても授業の見通しをもつことができる。</li> <li>・「心のベンチ」など副教材が用意されており、話し合い活動やロールプレイなどの多様な活動ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの教材のページに「問いをもつ→考える→まとめる→広げる」という1単位時間の流れが明記されている。</li> <li>・巻末に学習の一言感想が書けるワークシートがあるが、道徳ノートの書き方例なども紹介されている。</li> <li>・教材文の下には、児童が考えやすいように吹き出しでポイントとなる言葉が記載されていて、考えの一助となる。</li> </ul>
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和太鼓を取り上げた教材があり、多摩市の児童にとって、自分の経験と重ね合わせて考えることができる教材もある。</li> <li>・尾根幹線道路がオリンピックのコースになる多摩市にとって、扱われているオリンピック・パラリンピックに関する教材は適している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾根幹線道路がオリンピックのコースになる多摩市にとって、オリンピック・パラリンピックに関する教材は適している。</li> <li>・里山の話が掲載されているなど、多摩市の地域の実態に即している教材もある。</li> <li>・「郷土かるた」の教材があり、東京のことが題材となっている。</li> <li>・多摩市に似たような実態の教材があり児童にとっては場面を想起しやすい。</li> </ul>

教科名		道徳	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	学研教育みらい	廣濟堂あかつき
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの内容項目も満遍なく掲載されている。「善悪の判断」の教材が3つあり、自立的な心情を養うことをねらっている。</li> <li>巻頭には「道徳がはじまるよ」という呼びかけから関心をもたせるようになっている。初めに、自分のことを書いてみるコーナーがあり、自己を見つめるきっかけづくりとなりやすい。巻末には「心の宝物」という学びの足跡を残せるコーナーがある。</li> <li>生命尊重に係わる内容の教材に「いのちマーク」が付けてある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材が掲載されている「みんなで考え話し合う」、考えたことを記入する「自分を見つめ、考える」の2冊に分かれている。</li> <li>巻頭に「道徳の時間はこんな時間」という2ページにわたる記述があるため、児童はイメージしやすい。</li> <li>命の教育の一環として、「自らの命を守ること」の大切さが学べるよう、安全教育に関する特集がある。</li> </ul>
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>35の教材の他、「つなげよう」「深めよう」「広げよう」「やってみよう」があり、授業中だけでなく、朝の時間などの隙間時間に読み、考えることができる。</li> <li>役割演技や話し合いなど、友達と一緒に考える学習活動が設定されている。</li> <li>問題解決的な学習が可能な教材を多数取り上げ、自己の生き方についての考えを深める学習ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>別冊のノート「自分を見つめる、考える」では、児童が自分の考えを発問の横に書くことができる。</li> <li>教材文の最後に「考えよう 話し合おう」があり、発問がいくつも書かれている。</li> </ul>
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に即した場面を扱った教材が多く、自分事として捉えることができる。</li> <li>オリンピック、将棋、外国の文化の違い、貧困、情報モラルなど、時代に即した教材や資料が多い。</li> <li>重点テーマを「しっかり生きる」として、命の教育を幅広い観点で自ら考え、行動できるような確かな学びとなるよう工夫している。</li> <li>印象的な挿絵や写真を教材の随所に配列してある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題意識をもち多様に考えることができる教材、自己の体験や経験に照らして考えることができる教材、悩みや葛藤、心の揺れなど人間らしさが理解できる教材、よりよく生きる喜びや勇気、感動を与えられる教材など、幅広く掲載されている。</li> <li>スポーツや偉人などの教材からインターネットを題材にした教材まで、多岐にわたって時代に即応したものになっている。</li> </ul>
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権問題など、持続可能な社会に向けての問題点を取り上げている。</li> <li>自然愛や畏敬の念の教材では、ESDの視点が取り入れられている。</li> <li>食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育など、社会の持続可能な発展に関して、児童が身近な問題と結び付けながら、自分自身との関わりの中で考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題を題材にした教材が用意されており、総合的な学習の時間など他教科との関連性も高い。</li> <li>持続可能な社会づくりの現代的な課題として上げられている「人権(外国人、障害者)」が取り扱われている。</li> <li>自然愛や環境問題を取り上げてあり、ESDの視점에即している。</li> </ul>
B 使用上の 便宜 について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あなたとわたし」「わたしのこと」など児童にとって分かりやすい言葉で、指導項目がページの右上に示されている。</li> <li>難解な語句については、下に写真や意味があり分かりやすい。</li> <li>4つの視点ごとに色分けしたマークを使用して、児童は見通しをもって分かりやすく学習に取り組める。</li> <li>教材末尾の「かんがえよう」で、中心発問と自己への振り返りを行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>別冊のノートは毎時間の記録を残すことで心の変容や成長に気付きやすい。</li> <li>「学習の道すじ」が示されていることで、見通しをもった学習ができる。</li> <li>学習の手がかりとなる「かんがえよう はなしあおう」により、2つの問いから自主的な学習を促している。</li> <li>別冊のノート「自分を見つめ、考える」は、イラストがほとんどなく、特別支援の必要な児童でも学習に集中できる。</li> </ul>
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>多摩市に特化した教材はないが、児童の実態に即している。</li> <li>自然の動植物を扱った教材が多く、緑豊かな多摩市で生活する児童には物語を捉えやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材によっては関連図書が紹介されており、読書環境が充実している多摩市の学校の児童にとって、興味を引く内容になっている。</li> <li>自然の動植物を扱った教材が多く、緑豊かな多摩市で生活する児童には物語を捉えやすい。</li> </ul>